



No.46

UT University Forests News

科学の森ニュース

June 10, 2009

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

東大生、雪の森林を体験

北海道演習林

東京大学教養学部の授業科目、全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」を2009年3月4日（水）～6日（金）に開催しました。1・2年生24名が参加し、冬の北海道と雪の森林の魅力を満喫しました。本ゼミナールではスノーシューを履いて森林内に入り、GPSを用いてエゾシカなど野生動物の痕跡（足跡・ねぐら・食痕など）を探查するほか、樹木の観察などを行いました。何れも日常では体験することのないものばかりで、大いに楽しんで頂くと同時に、本ゼミナールでの体験が学生の皆さんそれぞれの様々な気づきや学びにつながったようです。



エゾシカの痕跡を追跡する

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

大学演習林の役割

新 演習林長 白石則彦

少し前の林業白書によれば、国民が森林に期待する働きの上位には山地災害防止や水源かん養などの公益的機能が入っていました。最近では地球温暖化防止も上位にランクインして、森林に対する社会のニーズは益々高度化・多様化しているようです。一方、大学の演習林に求められる最大の役割は、教育研究への貢献、つまり森林に関する優れた教育研究を通して社会に有益な情報を発信していくことです。よい森づくりはその原点です。新任の演習林長として、演習林教職員の皆さんとともに頑張っています。よろしくお願いいたします。



蔵治講師が編集した「水をめぐるガバナンス—日本、アジア、中東、ヨーロッパの現場から」が第19回高知出版学術賞を受賞

愛知演習林

高知県在住者の学術的著述または高知県に関する学術的著述で、地域の発展につながる優れた本を選ぶ「第19回高知出版学術賞」が2009年3月25日（水）に発表され、蔵治光一郎講師が編集した表題の書籍（株式会社東信堂刊）ほか2点が選出されました。

水危機は地球温暖化とともに文明存続の危機。この本では、日本や世界の具体的事例を通じ、多様なアクター協働による「青の革命」へ

の展望を拓いています。中でも物部川を重要事例に挙げ、その河川管理や流域連携の取り組みを全国でも注目されるものとして紹介しています。「水」を取り巻く人間や自然のかかわりを社会科学的、人文科学的視点から先駆的に考察したことが評価されました。



受賞作

東大職員向け特別ガイド「厳冬の森林散策」

富士演習林

2009年2月14日（土）、東大職員向け特別ガイド「厳冬の森林散策」を開催しました。東大職員とその家族15名が、また、応援で秩父演習林の準サポーター1名が参加されました。みなさん雪上歩行や雪景色を楽しみにしていましたが、この日は2月の観測史上最高気温を記録するほどの好天(?)で、泣く泣く「暖冬の森林散策」に変更…。

雪や氷は跡形もなかったのですが、林内ではユニークな葉痕*1)を観察したり、樹木の匂いを嗅いだり、昼休みには富士演習林産オニグルミを用いた食事やコースター作りを体験するなど、五感で楽しんでいただきました。来年は、寒気乞いをしてリベンジしたいです。



キツツキの巣穴を発見！

*1) 葉が落ちたあと、茎に残される維管束の痕跡。

全学体験ゼミナール（以下「体験ゼミ」）は教養学部の学生さんにフィールドや研究室での体験を通してさまざまな世界を知ってもらおうという情操教育の役割も含めて開講されている科目です。東京大学最大のフィールドである演習林では毎学期多くの体験ゼミが開講され、あわせて200名ほどの教養学部の学生さんが受講しています。体験ゼミの内容は「北の森林と天然林施業を学ぶ」、「都市の緑のインタープリター養成」、「関東の秘境でフィールドワーク入門」、「山、温泉、そして海。自然と人のつながりをまなぶ」など演習林の地域性を活かしたテーマや「危険生物の知識」、「フィールドで考える野生動物の保護管理」、「森林の保健休養機能」など森林に関連した知識を学べるものなど内容もさまざまです。受講生には農学部以外の学部に進学する予定の人も多く、直接「森林」との関わりの少ない分野に進学する学生さんにも「森林」のおもしろさを知ってもらえる貴重な機会になることを願っています。



体験ゼミでの薪割りの体験（樹芸研究所）

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

- | | |
|--|--|
| <p>2月
 3日 清澄森林博物資料館一般公開(千葉)
 4日 スノーモビル安全研修会◆(北海道)
 27日 根津小学校「一日東大生」で石橋整司研究部長が出張講義◆(研究部)</p> <p>3月
 14日 公開講座「冬の森林観察」(秩父)
 15日 公開講座「マツ枯れ跡地に一緒にマツを植えませんか」(愛知)
 19日 温室特別公開日(樹芸)
 23~26日 体験ゼミ「山地災害と森林保全」*(愛知)</p> <p>4月
 4日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」◆(千葉)
 11, 12, 18, 19日 春の一般公開(千葉)
 20日 サポーター養成講座「教育研究」◆(秩父)
 23日 農学生命科学図書館の内覧会◆(腰壁に北海道演習林のマカバを利用)
 26日 休日一般公開(田無)</p> <p>5月
 3~6日 総合科目「里山の自然を訪ねて」*(愛知)
 9日 特別ガイド「新緑の入川森林鉄道跡散策」(東大教職員対象)◆(秩父)
 9日 自由見学日(秩父)
 9日 公開講座「春の散策」(樹芸)
 10日 公開講座「鳥の巣箱づくりと観察」(愛知)
 10, 31日 休日一般公開(田無)
 16日, 6月 7日 体験ゼミ「都市の緑の緑のインタープリター養成ー子どもに伝える自然体験ー」*(田無)
 23日 サポーター養成講座「管理・運営」◆(秩父)</p> | <p>30日 公開講座「木を育てる」(秩父)</p> <p>6月
 3日 日本森林学会北海道支部春季行事◆(北海道)
 6日 里親企画 2009◆(秩父)
 5~7日 総合科目「緑のダム、水の革命、森の健康診断」*(愛知)
 7日 子ども樹木博士認定会・休日一般公開(田無)
 11日 サポーター養成講座「植物(樹木・草本)」◆(秩父)
 13~14, 27日 体験ゼミ「危険生物の知識」*(千葉・秩父)
 14日 第15回市民公開セミナー「樹海めぐり」(北海道)
 20~21日 総合科目「森林ー人間系の科学」*(千葉・秩父・富士・樹芸)
 27日 サポーター養成講座「森林における安全管理」◆(秩父)</p> <p>7月
 25日 夏の森林教室(千葉)
 26日 第8回大麓山ハイキング登山会(北海道)
 31日 公開講座「植物採取と標本作り」(愛知)</p> <p>8月
 1~2日 公開講座「親子で学ぼう！森林の昆虫採集」(秩父)
 4~6日 高校生のための森と海のゼミナール(千葉)
 4~7日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ1」*(樹芸)
 6日 サポーター養成講座「森林生態系の管理と利用」◆(秩父)</p> <p>9月
 4~7日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ2」*(樹芸)
 7~10日 体験ゼミ「森林の保健休養機能ー癒しの空間を考えるー」*(富士)
 12日 サポーター養成講座「林業生産と育林技術」◆(秩父)
 14~17日 体験ゼミ「関東の秘境でフィールドワーク入門」*(秩父)
 27~30日 体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)」*(樹芸)
 28日~10月 1日 体験ゼミ「北の森林と天然林施業を学ぶ」*(北海道)</p> |
|--|--|

凡例・・・無印:一般向け ☆:学生向け ◆:その他

モリアオガエル

アオガエル科 アオガエル属

学名： *Rhacophorus arboreus*

千葉演習林

日本の固有種で、本州と佐渡島に分布します。樹上で暮らし、4月から7月に水面上に伸びた枝先などに白い泡状の卵塊を産みつけるなど、森林と密接な関係を持っています。卵塊表面からある程度中心に入ったところでは、湿度が保たれて卵の発生が進み、ふ化した幼生（ようせい：おたまじゃくしのこと）はそこから下方の水面に落ちます。



千葉県鴨川市にある清澄寺境内の池は、モリアオガエルの産卵地として天然記念物に指定されていますが、周辺に生息地が少ないわけではありません。千葉演習林内にも広く分布し、林道の側溝などに偶然できた水たまりの上などにも産卵します。

名所・名物案内

いりかわきどうあと 入川軌道跡歩道

秩父演習林



—自由見学日—新緑の入川軌道を散策する参加者

秩父演習林栃本地区の入川渓谷沿いにあるこの歩道には、かつてトロッコが走っていました。急峻な秩父の山地では、森林へのアクセスの良否が林業経営や、森林の管理、試験研究などに影響を与えます。このため、森林軌道整備に重点が置かれるようになり、大正12年に着工し、昭和11年に完成したのが入川軌道です。

入川軌道は、奥地の森林利用に大きな実績を残してきました。その後、自動車の普及に伴って林道の整備に重点が置かれるようになり、昭和44年にレールが撤収され、軌道としての利用はその幕を閉じることになりました。

現在、入川軌道跡は登山道や演習林の管理歩道として愛され・利用され続けています。今もところどころに残る枕木は、森林と人間との深く長い関わりを思いおこさせるほか、新緑や紅葉の美しい景色が私たちの心を和ませてくれます。

秩父演習林では、自由見学日など様々なイベントで入川軌道跡歩道をご利用いただける機会を準備しています。歴史に思いをはせながら、美しい自然の中を歩いてみてはいかがでしょうか？皆様に楽しく利用していただいたことが、入川軌道の新たな歴史として刻まれていきます。運が良ければ秩父演習林のマスコットであるカモシカくんのモデル、ニホンカモシカに会えるかもしれません。

科学の森ニュース (UT University Forests News)

第46号 (No.46)

発行日 平成21年6月10日

発行人 白石則彦

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp